哲学の授業と授業評価

佐々木一也

1. 良い授業とは

学生の参加，あるいは参画のある授業，すなわち一方通行でなく，できるだけ少人数で，ディベートなどの展開をも含みうるものが良い授業だと一般に言われている[1]。しかし現実にはゼミばかりで授業を形成できないので，特に私立大学の場合はふつう規模での授業において同様の効果に近い成果が得られる工夫をしなければならない[2]。

その際，学生のニーズを職業的関連性，コスト対応，非職業的関連性（卒業後責任ある地位につくと必要性を痛感するという）[3]との関係から学生の日常生活との密接な関連に求めたいと思う。

「教師は演技者たれ」というローマンの有名な考え方もあるが[4]，この方面の教授技術の工夫については既にアメリカのものを中心として数多くの成果が紹介されているし，国内でも教授法を扱った文献が最近目立つようになってきた。従って，ここではそのようなものではなく，学生参加の観点から，教授技術に還元されない，学生のニーズとのつながりを大切にする授業を造ることを目指してみたい[5]。そして，それは単位の空洞化に対するささやかな抵抗の試みともなろう。以上の考えから，私自身が試みている授業を紹介し，それを学生の手助けを借りて反省検討している授業運営の実態の一端を提示し，大方の御批判を仰ぎたい。

2. 私の一般教育科目「哲学」の授業

立教大学では一般教育科目はまもなく変更の予定だが[6]，現在は3分野均等履修という従来型のカリキュラムで実施されている。全学開放自由選択型なので，授業は全学部全学年の学生が混在して行われている。私は人文科学分野で3種類の哲学講義をしている。それらの授業の概略を簡単に示せば以下の通りになる。

哲学1　西洋哲学史の知識の提示と，それが生かされている我々の日常生活上の具体的事象の分析。標準的哲学入門講義。毎回最後の10分でその日の講義に対する意見を書かせて提出させている。それは平常点と出席取りを兼ねている。

哲学2　私の現在の研究テーマに基づいて，私が生活しながら考える哲

学の現場を見せる。近代西洋哲学の限界を我々の日常生活の解釈学的分析によって解明し，日本近代哲学の形成過程の問題点から現代の我々の思想を展望する。素材は学生の日常生活。一般教育科目としては程度が少し高い。最後の10分は上と同様である。

哲学3　哲学史的知識によらず，自分の抱えている問題を哲学的に考えてみる。主題別哲学講義。学生が自分の考えたことを直接私に伝えるレポート提出が義務。

以上の中で，私は哲学3を実験的授業として行っている。本論考では，哲学3の授業の成果を検討したいと思う。

3. 哲学3の実際

哲学3の授業をもう少し詳しく紹介しよう。内容は1995年度履修要項を参照されたい。

ねらい　学生の直接的反応を確かめる（学生参加の一つの形）。文章を書き自分の考えを簡潔にまとめる訓練。外国文化としての西洋哲学の教養でなく，自分の具体的現実からの哲学的疑問を息長く考える訓練。学問と生きられる生活との連携（生きた教養）。知識よりも考えて生きる力の養成。「人生とは何か？」という通俗的な（？）タイトルがそのことを象徴している。

導入・自己紹介　プリントによる簡単な履歴紹介と私自身の哲学入門体験，哲学学習の勘所の指摘。1年間授業を担当する教員を学生に受け入れてもらうことと，教員の学問研究，これからの講義の内容が，日常生活や生き方とどのように連絡するかを自覚させるのを目的として，どの授業でも行っている。科目が哲学であることも自己紹介を重視している理由の一つである。

テキストとしてのプリント　特定のテキストは指定せず，独自のプリントを毎回配布する。哲学1と哲学2では毎回次回の講義分を配り予習させるのだが，哲学3ではその日の講義に集中させ，新鮮な感覚で聞いた話にその場で自分の意見を表明させることをねらって，その場で初めて配り，それに基づいて話をし，考えさせ，レポートにまとめさせる。参考までに授業プリントのサンプルを添付する。**(資料1)**

毎回提出のレポート　90分の授業時間の内，60分は講義をし，残りの30分を作業時間とする。作業としてその日の講義に対する自分の意見をレポート用紙1枚にまとめる。

毎回返却のレポート　すべてのレポートにコメントをつけて次回に返却する。学生はその次にはその日の講義内容ともらったコメントを受けてレポートをまとめる。

講義の手順　時間通りに教室へ入り，10分から15分かけて返却する。返却レポートで気づいたこと，全体的傾向，特徴，特に変わった意見などを紹介して，前回の講義について誤解が目立ったところなどを解説し直したり，有力な反論に対して答えたりする。それを踏まえて，その日の予定のプリントを配り，講義に入る。毎回のテーマ

は一回読みきりだが，内容的には連続するので，学生も前回のレポートとそのコメントを踏まえて，その日のレポートを制作する。返却に多少の時間をとられるので，90分に納めるのは難しく，従ってこの授業は最終時限にしか設定できない。最後の学生が提出するのは正規時限終了30分後ぐらいになる。

評価方法　毎回レポートを読むので試験は実施しない。平常点だけで評価し単位を出す。成績の基準は，講義内容をきちんと理解しているものをBとして，自分の積極的考えが読み手に伝わるように表現されているものがA，理解が十分でないか，文章が稚拙なもの，内容が十分に考えられていないもの等がC，全くの誤解（主張があって積極的に誤解している場合は良い），いい加減な内容，全く構成されていない文章などがDと評価される。中間段階のものも作っている。非常に優れているものはSとしている。毎回このようにして成績を付け，一年間の平均で成績を付ける。年間で25回ほどの講義が予定されていて，7回以上欠席するとよほど良い平常点を取っていない限り単位を取るのは難しい。

規模　1994年度と1995年度と2年続いて実施している。1994年度の登録者は150名。単位申請者87名。毎回学生の顔ぶれには多少の異同があるが，およそこのくらいが常時出席していたと考えて良い。欠席回数が多いと単位申請の資格がなくなるので，10回以上提出しても申請しないものもいる。1994年度の結果はA44名，B38名，C2名，D3名であった。1995年度は登録者298名。常時出席者約200名。これはあとで触れるが，この講義の進め方からいってあまりに多すぎる学生数である。

自己評価　1994年度は毎週90枚ほどのレポートに4，5時間をかけてコメントするのは大変であったが，学生の反応を見るのも楽しみであり，また，学生の成長してゆく様子も分かったので，自分ではこの授業は合格と判断している。学生も概ね真剣にそれぞれの抱えている問題を提出し，それを私の講義の内容，方法論に関連づけて考えてくれた。毎週学生の一人一人と手紙の交換をしているようでもあった。多人数講義形式の授業にしては学生との緊密な関係を自覚できた。レポートを見るとわかるのだが，学生の方でも同様であったようだ。その意味で，1994年度に関する限り，この講義は実施してみて良かったと評価している。

アンケート　1994年度の自己評価を確認するため，今年度（1995）前期終了時にアンケートを実施し，学生の声を拾ってみた。アンケート用紙の質問項目を資料として掲げて置いた。**（資料2）**

4．アンケート集計結果（資料3）

詳細は資料3の集計結果の数字を見ていただきたい。なお，前期最終週に行ったために普段の授業時より少ない回答となった。文学部の履修者が少な

いのはこの授業のある月曜日に文学部１年次生が別のキャンパス（新座）で授業を受けているために，私の授業を原理的に履修できないためである。従って文学部のみ２年次以上に限られている。

この結果に私の立場からあえてコメントを付けるとすれば以下のようになる。

「Ｉ人生について」では，この講義のテーマ「人生とは何か」に対する学生の構えを聞いてみた。

人生について　　かなりと時々を合わせればどの学部も90％前後が考えている。この授業のテーマに対する関心の高さを示す。

死について　　人生より20％低い。経済学部男女と理学部女（サンプルは少ないが）で低いのが気になる。

人生，死について考えない理由　意味がないとの回答があるのが気にかかる。

人生を論じるか　　全体で60％程度。理学部男女と法学部男が少ない。

人生を論じる機会を求めるか　　約60％が求めていて，否定的なものは10％にとどまっている。この数字は多いと思われるだろうか，それとも少ないと思われるだろうか。関心の高さ（90％）に比べて，他者とこの問題を共有しようとする意欲が少ないのは，孤立的傾向の強い現代の若者気質の現れなのだろうか。

全体として，このアンケートに答えた学生に関する限り，私の哲学３には授業テーマと主体的関心が一致した学生が多いと言えよう。

「IIこの講義について」では，哲学３の外面的魅力を聞いてみた。

哲学を履修した理由　　半数が哲学そのものに関心を持っている。ただし，私の別の調査によれば，新入学生の哲学に対する認識，常識は大変乏しい[7]。高校時代に本格的に接することのなかった珍しさに惹かれていると答えたものが20％あることに注目したい。

哲学３を履修した動機　　70％が履修要項を読んだ結果だとしている。学生サークル，クラブなどが流す非公式情報が履修動機に与える影響の大きさがよく言われるが，学生は履修要項を良く読んでいる。これは私のこの種の調査ではいつも出る結果である。学生間の情報によっているものは約20％で，男よりも女の方が率としてかなり多いのも注目に値する。また日課表作成上の都合という全く消極的動機の学生も10％いることはいる。これは私の予想より少ない。学生はしっかりと関心によって選択しているようだ。

哲学３の魅力　　男女の差なく60％が講義予定テーマを挙げている。テーマの詳細については履修要項を参照されたい。これは私の他の講義の講義要項と比較するとよくわかるが，学生の身近にある哲学的に扱いやすい，親しみやすい問題を扱っているためだと考えられる。また，哲学者の難しい抽象

的な学説を理解し，覚えなくてもすむ。ちなみに哲学１の1995年度履修者154名，哲学２は84名。毎回レポートを提出することは面倒と見えて10％少々の支持しかないが，レポートにコメントをつけることには30％近くの支持がある。それと同時に，定期試験をしないことにも人気があつまっているのは学生の本音の現れか。これには一考を要するかもしれない。

情報の内容　　学生間の情報によって選択したと答えた学生に対する質問。単位が甘いというものも少数あるが，圧倒的多数が有益な授業だという情報を頼りにしているのが救いである。(このグループ内では77％)

「Ⅲこの講義に前期出席してみて」では，哲学３の授業の内容に係わる評価を求めた。

この講義の程度　　授業プリントのサンプル（資料１）を見ていただきたい。男女の差なく半数がちょうど良いと答えている。そして４割強が難しいとしている。易しいとするものはごく少数。学生にとってはやや難しいのかもしれないが，哲学として学生の日常生活の知識次元を越え，本質的問題へと認識を深めさせようとしているので，やむを得ないのかもしれないとも私は思っている。多少難しいと学生に思われるくらいでちょうど良いというのが，私の大学での授業程度に関する考え方である。難しいとする割合の多い理学部男で説得力の項目に関して否定的なものが多いのも，人生についての項目での積極性の低さとの関連で納得できる。これらの学生に生き方に関する哲学的関心を喚起する工夫が課題となる。また，これは資料のアンケート結果表には書かれていないのだが，学年別に見ると全体的に１年次生に難しいと答えたものの割合が多い。

教員の人柄　　教員としては気になる項目だが，全体として70％近くの支持を受けることができた。ここではどの学部でも圧倒的に女子の方が甘いようだ。男子は厳しい。ただ反感を持たれていないのが救い。

話し方　　大学教員の教師としての命に関わる項目だが，厳しい結果が出てしまった。論理的に明晰と評価したものは約半数。しかもここでも経済学部（女子でしばしば混乱したとするものが多い）を除いて圧倒的に女子が甘く，男子は半数に達しない。男子と女子では聴き方が違うのだろうか。大いに反省と工夫を迫られる結果である。

説得力　　「あった」とするものでは各学部とも男女による差はないが，「少しあった」とするものにはやはり女子が多い。「あった」と「少しあった」を合計すると男子72％，女子80％になる。ここでも前述の通り，理学部対策が課題である。理学部らしく，自然科学基礎論的な専門に近い哲学講義を望む記述などがあった。

板書　　日頃我ながら下手なものだと思いつつ板書をしているので，実は全く自信がなかったのだが，意外によ

い評価なので驚いている。下手なりにもなるべく楷書で，大きく，はっきり書こうとしているのが望外な評価につながったようだ。

毎回レポート　全体で約4割が大変だと答えているのには驚いた。しかも作文には強いと考えられる女子にすべての学部で多い。経済，理，法の学部で女子の半数以上が大変だと考えている。これも意外であった。レポート用紙1枚（多くの学生は半分から4分の3位しか実際には書いていない）を文章で埋めるのがそれほど大変なことになるのが，今の学生の文章力なのである。すべてにコメントをつけるこちらの方がもっと大変なのだが。

レポート返却　実に9割近くが期待していると答えている。これは学生が教員からの個人的語りかけを求めていることの表れだと考えられる。形は大人数講義なのだが，学生にとっては1対1で教員と意見交換する感覚で参加することができるようにしたいと心がけている。学生のこのことへのニーズは大きいと考えられる。

コメント　学部男女によって多少のばらつきはあるのだが，およそ6割が参考になったとしている。ここでも参考にならなかったという厳しい評価をするのは理学部男子である。この率はもっと上げなければならない。

コメントの量　適当と答えてくれたものが全体で4割強。本当は全く不十分な量のコメントしか付けられていないのだが，今年は150から200の数になるので，こちらの労力の大きさを配慮してくれたようだ。実際3，4行のコメントが多くなってしまった。昨年はもっとしていたのだが。こちらが充実すれば，上の項目の率ももっと良くなるかもしれない。

履修の評価　ここでも女子の方が好意的だが，概ね8割が履修してみて良かったと答えてくれた。

5．以上の結果から言えること

人生問題にそれなりに悩んで，もっとこの問題を追求してみようと言う意欲を持ち，それをきっかけに哲学を聞いてみようとした学生たちは，履修要項を良く読んで自分の関心に合うテーマを扱う講義を選択し，特に女子は友人などの情報をも参考にして，私の哲学3講義を履修した。私はこれらの意外に真摯な学生の求めに応えなければならないと思う。話し方がうまくなく，多少難解気味になってしまう私の講義ではあるが，ふだんの生活では考えなかったことを考える機会を与えられて，学生の多くは私の講義を理解しようとし，それを毎回文章にまとめてきた。それには一定の成果があったと言えるかもしれない。第一に，学生がそれなりに実のある学習と思索体験をしたと思われる。これは毎回のレポートからはっきり読み取ることができた。第二に，教員の側にとっても良いことがあった。昨年の90名規模の場合ではレポートを毎週読み名前を呼んで学生に返却したことで，かなりの人数であった

にも関わらす，学生の顔と名前が一致した。これは講義する場合でも重要である。それぞれ何を考えているかだいたいわかっている学生の顔を見ながら話をするのと，全く不特定な聴衆を相手に話をするのでは，話の「生き方」が全然違ってくる。その点で，この講義は特に哲学の授業として，考える姿勢を伝える，カントの言い方を借りれば「哲学する事（philosophieren)」を教えることがなにがしかできたと考えることができよう。しかし，まだ不十分なことは多い。授業規模，教室の収容力，教員の授業準備に当てられる時間の制約などである。

前述したように，1995年度の履修登録者数298名はこの種の授業としてはあまりに大きすぎる。致命的である。アンケート回答者135名は前述の通り，9割がた主体的受講学生だと考えられるが，残りの学生はかなりの部分付和雷同型の学生か，保険登録で積極的受講の意志のない学生であると考えられる。それらの学生の私語が必ずしも完全に制圧されないこともあり，真剣な学生の不満の声が寄せられている[8]。これは教室の問題とも絡んでいる。

当初，なんと70名定員の教室が割り当てられていた。これは完全自由選択の全学開放型であることから学生の集まり方が予想しにくいという事情が背景にあるのだが，私立大学特有の問題が露呈しているとも言える。現在は教室変更をして200名定員の教室で行っているが，それでも本来は収容しきれないのであり，事実立ち見の学生も出ていた。しかし，ぎゅうぎゅう詰めで立ち見が出るという悪条件で，履修をあきらめる学生が続出し，まだきついのだが結局は何とか収まる状況になっている。このことは積極的履修動機のある学生をも，物理的条件の故に排除している可能性を示唆する。学生たちはこの授業に関してもっときめの細かい指導を期待している。それが必ずしも今年度はできていない。席がないかもしれないと言う落ち着かない気分で出てくる学生の授業は気分的にも何となく落ち着きがない。正直にいって，150から200のレポートに毎週コメントをつける作業には，相当気合を掛けなければ取りかかる気にはなれない。規模の「適正」化と条件の良い教室の確保は哲学3にとってその成否に関わる本質的な問題である。

今年度の状況は私のある失敗のせいでもある。この授業では当然ながら，教員である私の負担は物理的，精神的にかなり重いものになる。1994年度の場合でも，毎週毎週90枚のレポートを採点するだけでなく学生と対話をすべく丁寧にコメントをつけて返すというのは気の重い仕事でもある。学生の方も大変であるから最終的には履修登録者の半数ほどに減ってしまうのだが，残った学生は一生懸命一年間やってきたわけで，落とすわけにはいかない。哲学1と哲学2の学生は普段はただ聞いていて，小さい紙切れに2，3行のコメントを書いて出すだけでよいので

ある。1回の授業に消費する学生の知的エネルギーは哲学3の方が圧倒的に大きい。それを考えれば，勢い成績は良くなってしまう。最後に残った学生の内不合格は3人しかいない。それも出席が極端に少ないものたちである。そしてこの講義の性質上，定期試験をしていないことがある。学生が集まる条件がそろっている。

私は今年度哲学すべてで527名（哲学1と哲学2とで229名）の学生を抱えている。立教大学の一般教育科目では自由選択のため各科目とも履修登録者数に偏りが生じがちである。一人で1000名以上の学生を抱えておられる教員もいる。ちなみに昨年度400名以上の履修登録学生のあった教員は29名(一般教育科目を1コマでも担当した教員は全部で119名，29名はその24%，ただし持ちゴマ数が違うので単純には比較できない)[9]。そのうち，評点C以上で合格した学生の割合が70%以上だった教員は20名（29名の内の69%）である。学生は必要最少単位数以上に登録する傾向があり，最近5年間の平均では必要コマ数の1.55倍という数字が出ている。従って平均すればかなりの棄権者が出るはずで，1/1.55＝0.65となり，65%の学生が合格すれば全員卒業できる計算になる。合格率の良い教員には学生は集まる傾向があるようである。(Aの割合にはかなりのばらつきがあり，Aが10%以下でも1000名以上集まっている教員もあるので，Aの割合と学生の集まり方との相関はみられない。）私の場合，昨年度には318名で49%の合格率であった。哲学3に限れば56%である。特に合格率が高いわけではない。それにも関わらず学生が増えたのは授業が評価されたのか，それとも他の原因によるのだろうか。その一方で一般教育講義科目総コマ数の中で30%が30名以下の履修登録者で行われている。このアンバランス，教室事情の悪さという私学特有の問題を大学規模で解決していかない限り，私だけが履修者数制限をして，「適正規模」の授業を営み，同僚教員にしわ寄せを及ぼすわけいはいかない。

そもそも適正規模とは何であろうか。科目の性質や，その科目によって教員が期待するもの，学生が期待するものによって違うだろうから，一律には論じられない。しかし，現在立教大学で進められている一般教育科目の改革では，授業規模についても120名位を標準にしようという合意ができつつある。哲学3はまさにこの規模で行われて最も良いと私は考えている。しかし，これは現状の哲学3に関して学生からの要望に最も応えうるものだとしても，それの実現は私一人の努力，工夫のできる範囲を大きく超えている。履修制限の方法，成績評価の標準化（学生は授業の標準化を求め，教員は個性化を良しとする傾向を持つ，とする研究もある)[10]，教室配分，時間割の規制など，やらなければならないことが山積みのまま残されている。

結局，学生の求めるものを考慮しつ

つ，教員にとってもやりがいのある授業は，大学全体で教員すべてが連携して，制度としての授業のあり方を改革する事を通して創ってゆく以外にはないのではなかろうか。また，最近どこの大学でも進められている制度機構改革は，残念ながら大学設置基準の大綱化，学生となる若年層人口の急激な落ち込みなどの外圧があって進められている。大学改革を実りあるものとするためにも，授業の内容改革の努力と連動させてゆくことが求められるのではないだろうか。

(本論考は大学セミナーハウスにおける第10回大学教員研修プログラム「単位制度の空洞化に挑む」1995.9.23における講演の原稿をもとにして成ったものである。)

注

(1) 我々教員の日常的実感でもある。最近多くの大学で一般教育的科目にゼミ形式を取り入れる改革が行われていることを見てもわかる。W.J.マッキーチ著／高橋靖直訳『大学教授法の実際』玉川大学出版部1984に，討論，学生の教授，ロールプレイング，ゲーム，シミュレーションなど，学生参加授業のテクニックのいくつかが紹介されている。

(2) 最近では，川又淳司著『大学の授業研究』水曜社1994にこの問題に関する真摯な取り組みが紹介されている。

(3) IDE『現代の高等教育』No.368，1995，P58 ここに収録されている大学教育論の専門家たちによる座談会は，学生による授業評価から受け取る教員の学生理解，特に学生からの要求の理解に関して，興味深いものを提示している。

(4) J.ローマン著／阿部美哉監訳『大学のティーチング』玉川大学出版部1987にこの主張が詳しく議論されている。

(5) 前掲IDE，No.368，P12の立川明氏の論文や，同書P34の青山吉隆氏による徳島大学工学部の事例報告は，教員の熱心な取り組みと，その結果である試験，レポートの多いハードに勉強させられる授業に学生の不満が少ないことを教えてくれる。

(6) 1997年度から全学共通カリキュラムとして，全学の全学部学科の担当と支援のもとに，科目区分も科目理念も，学部カリキュラムにおける位置づけも，履修方法も全く装いを新たにして始まる予定で，現在準備中である。

(7) 1992年度授業開始時に，哲学・思想関係の常識度チェックをしたことがある。それ以前の授業で，学生があまりにものを考える方法を知らないことに気づいたため，実施してみた。結果は恐るべきものであった。西洋哲学史の巨人たちの思想内容はおろか，名前さえよく知らず，知っていてもせいぜい聞いたことがある程度の学生がほとんどで，西田幾多

郎を初めとする日本の近代哲学思想の巨人たちについては，その存在さえも知らないという有様であった。この結果が私の現在の授業テーマ，方法を設定する際の原点となっている。

(8) 片岡徳雄・喜多村和之編『大学授業の研究』玉川大学出版部1989，P65-77に私語の実状調査，その制圧方法などが検討されている。

(9) これとさらに以下の数字は立教大学教務部一般教育課程教務課のご協力による資料によった。

(10) 前掲『大学授業の研究』玉川大学出版部1989，P49

（文学部　助教授）

（資料１）

哲学３（佐々木）第12回　　哲学4311

「愛」その６――「絶え間ない創造としての愛」

愛のテーマの最終回。愛とは何か，まとめてみよう。

⇨　無償の心。真の対決の可能的帰結。徹底した同化への欲求。奪い，与える。不安定な緊張関係。必然的破局を持つものとしての恋愛。恋愛と不連続の関係にある結婚。結婚生活の秘訣は適当な距離。性のかけ引きによる愛の具体化。愛の主体的性格による日本の問題。

⇨　愛は他者とのかけ引きを遂行する自己の活躍に全く依存する。

⇨　自己の確立が愛の実現にとって本質的条件。

自己が確立していれば愛は実現できるのか。

⇨　否。愛は相互的なもの。サディズムやマゾヒズムは必然的に挫折せざるを得なかった。

⇨　自己確立は必ずしも愛の実現の十分な条件とは言えない。

例えば片思いも恋愛の一形態だが，愛である場合とそうでない場合がある。

⇨　愛である片思いは，相手のことをも節度をもって考慮にいれ，自己の中で相互の愛を実現している。片思いでも相手の自分に対する評価，態度を大変重視する。そして自分を相手を鏡として見つめ，自分を相手にふさわしいものとすべく高めようとする。

⇨　それに対して，愛でない片思いは，自己の主張を一方的に相手に押しつけ求めるだけ。独善的自我確立によって起き易い。自分に都合のよい相手像を空想し，架空の相手と楽しい恋をする。あるいは相手の迷惑になることでも自分の思いだからといって押しつけようとする。もちろん自己が十分確立していない場合はこの例になる。自分本位の我が儘な自己は，十分にそれとして独立して確立されているとは言えないから。

愛が実現していれば自己が確立しているか。

⇨　諾。そのとおり。愛の実現は自己確立の十分条件である。

⇨　愛の実現は，自己確立をも含んでもっと豊かな状態。

⇨　自己を確立したうえで，他者を受け入れ，自己変革してゆく度量が要求される。

愛とは相互の自己変革によって維持され，発展される。愛は発展するものである。

⇨　永続する愛は恋愛とは違って，いたずらに同一化を求め合わないものであった。そこには着かず離れずの緊張関係があるのだが，両者ともに無傷で永遠にいられるわけではない。両者ともに変化してゆかなければ，その関係は維持できない。

⇨　着かず離れずの関係を詳しく見よう。両者が距離を置こうとして離れる場合，

そのままにしておくと離れ離れになってしまう。それを防ぐためにまた近づこうとするのだが，その際の両者は，最初の態度を変化させたのであるから，両者ははじめとは変化したといわなければならない。次に，近づき過ぎるのを恐れて，又離れようとするのだが，この動きははじめの離れる動きと同じではない。両者は同じことを繰り返すのではないからだ。両者の動きはその度に新しい歴史を作るということであり，次の動きはそれまでの歴史的経緯を踏まえてなされる。その意味で，両者は着かず離れずの運動を繰り返しながら，歴史を作りつつ，変化してゆくのだ。

⇨ 愛とはこのように愛し合う両者の絶えざる変化の中に維持される。

⇨ 愛は愛する人の自己変革の努力によって存在する。その存在は一定ではなく，人の変化に伴って発展すると言える。愛はいつも新しく造り変えられるのだ。

⇨ 愛の中に安住することは有り得ない。いつも緊張状態にあって，創造的でなければならない。

愛の中に自己確立があるとすると，自己は一人で確立されることはないことになるのだろうか。自己は常に他者を前提にしなければ有り得ないのだろうか。自己は自分の責任を自分でとれないのだろうか。他者と連続するものとして自己は可能なのだろうか。愛に深く係わるならば，人は自己がそもそも何であるのかという問題に突き当らざるを得ない。次には，「自己とは何か」を話題にして考えてみたい。

（資料２）

哲学３（佐々木）アンケート

以下の項目のうち当てはまるものの番号を○で囲んでください。

あなたの性別　1．男　2．女

あなたの学部　1．文学部　2．経済学部　3．理学部
4．社会学部　5．法学部

あなたの学年　1．一年　2．二年　3．三年　4．四年　5．五年以上

Ⅰ人生について

(1)人生について普段考えますか？　1．かなり考える　2．時々考える
3．余り考えない　4．全然考えない

(2)死について考えたことがありますか？　1．かなりある　2．時々ある
3．余りない　4．全然ない

(3)(1)か(2)で３か4と答えた人に，その理由は？　1．忙しくて考えている暇がないから　2．考えるのが面倒だから　3．考えるのが恐いから
4．考える意味がないと思うから　5．その他（　　）

(4)人生について他の人と論じる機会がありますか？　1．かなりある
2．時々ある　3．余りない　4．全然ない

(5)もっと人生観を語る機会を欲しいと思いますか？　1．はい　2．いいえ
3．分からない（　　）

Ⅱこの講義について

(1)哲学を履修しようとしたのは？　1．哲学に関心があるから　2．高校で勉強しなかったので珍しいから　3．何となく　4．日課表作成の都合上
5．その他（　　）

(2)この講義を選択したのは？　1．履修要項を見て　2．先輩，友人の情報
3．何となく　4．日課表作成の都合上　5．その他（　　）

(3)(2)で１と答えた人に，何が魅力的に思えましたか？　回答は複数でも構いません　1．講義予定のテーマが面白そうだった　2．毎回レポートを書くこと　3．レポートにコメントがつけられて返されること　4．試験を行わないこと　5．その他（　　）

(4)(2)で２と答えた人に，その内容は？　1．有益な授業だ　2．単位が甘い
3．その他（　　）

Ⅲこの講義に前期出席してみて

(1)この授業の程度は？　1．難しい　2．ちょうど良い　3．易しい
その理由（　　）

(2)教員の人柄は？　1．好感が持てた　2．反感をもった　3．どちらと

も言えない

その理由（　　）

(3)教員の話し方は？　1．論理的で明晰だった　2．混乱したことがしばしばあった　3．どちらとも言えない

(4)説得力は？　1．あった　2．少しあった　3．余りなかった　4．全然なかった　5．分からない

(5)黒板の文字は？　1．読みやすかった　2．読みにくかった（1．字が下手　2．小さすぎる）

(6)レポートを毎回書くのは？　1．大変　2．普通　3．楽

(7)レポートが返ってくるのは？　1．期待している　2．どうでもよい　3．全く期待していない

(8)レポートに対するコメントは？　1．参考になった　2．参考にならなかった　3．どちらでもない

(9)コメントの量は？　1．適当　2．少ない

(10)この授業を履修して？　1．良かった　2．良くなかった　3．わからない

その理由（　　）

Ⅳ後期の授業に期待するもの，注文などがあれば書いてください。

有難うございました。後期の授業の参考にさせていただきます。

（資料３）

哲学３アンケート95集計結果

サンプル数　135　内男84・女51

(文学部男４・女12，経済学部男34・女８，理学部男11・女３，社会学部男21・女10　，法学部男14・女18)

Ｉ人生について　　上左数字男　上右数字女　下数字単位％

	文学部		経済学部		理学部		社会学部		法学部		全男	全女	全
人生・かなり考える	2	3	12	2	2	0	9	1	6	3	31	9	40
	50	25	35	25	18	0	43	10	43	17	37	18	30
時々考える	1	8	18	6	7	3	9	9	5	14	40	40	80
	25	67	53	75	64	100	43	90	36	78	48	78	59
あまり考えない	1	1	3	0	1	0	3	0	3	1	11	2	12
	25	8	9	0	9	0	14	0	21	6	13	4	9
全然考えない	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2
	0	0	3	0	9	0	0	0	0	0	2	0	1
死・かなり考える	2	3	7	2	2	1	7	1	3	5	21	12	33
	50	25	21	25	18	33	33	10	21	28	25	24	24
時々考える	1	7	12	2	7	0	9	5	7	9	36	23	59
	25	58	35	25	64	0	43	50	50	50	43	45	44
あまり考えない	0	2	12	3	1	2	5	4	4	3	22	14	36
	0	17	35	38	9	67	24	40	29	17	26	27	27
全然考えない	1	0	2	1	1	0	0	0	0	1	4	2	6
	25	0	6	13	9	0	0	0	0	6	5	4	4
考えない・忙しい	0	1	2	0	0	1	1	0	1	0	4	2	6
	0	8	6	0	0	33	5	0	7	0	5	4	4
面倒	0	0	3	0	1	0	0	0	1	0	5	0	5
	0	0	9	0	9	0	0	0	7	0	6	0	4
恐い	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	1	4	5
	0	0	3	13	0	33	0	10	0	6	1	8	4
意味がない	0	0	5	2	0	0	1	0	1	1	7	3	10
	0	0	15	25	0	0	5	0	7	6	8	6	7
その他	1	0	3	1	3	0	5	2	0	2	12	5	17
	25	0	9	13	27	0	24	20	0	11	14	10	13
人生を論じる・かなり	1	2	3	0	1	0	3	1	0	2	8	5	13
	25	17	9	0	9	0	14	10	0	11	10	10	10
時々	3	7	17	6	4	1	9	6	8	10	41	30	71
	75	58	50	75	36	33	43	60	57	56	49	59	53
あまりない	0	1	9	2	6	2	5	3	5	5	23	15	38
	0	8	26	25	55	67	24	30	36	28	27	30	28
全然ない	0	1	5	0	0	0	3	0	1	1	9	2	11
	0	8	15	0	0	0	14	0	7	6	11	4	8
人生論の機会・欲しい	4	8	18	6	7	2	13	7	9	9	51	32	83
	100	67	53	75	64	67	62	70	64	50	61	63	61
欲しくない	0	1	4	1	1	1	1	1	2	1	8	5	13
	0	8	12	13	9	33	5	10	14	6	10	10	10

	文学部		経済学部		理学部		社会学部		法学部		全男	全女	全
わからない	0	3	10	1	3	0	7	2	3	8	23	14	37
	0	25	29	13	27	0	33	20	21	44	27	27	27

IIこの講義について

	文学部		経済学部		理学部		社会学部		法学部		全男	全女	全
哲学・関心がある	3	8	17	5	5	1	12	8	7	9	44	31	75
	75	67	50	63	45	33	57	80	50	50	52	61	56
珍しい	0	1	9	2	2	1	7	1	3	3	21	8	29
	0	8	26	25	18	33	33	10	21	17	25	16	21
何となく	0	1	2	0	1	1	1	1	1	5	5	8	13
	0	8	6	0	9	33	5	10	7	28	5	16	10
日課表作成上の都合	1	2	5	0	3	0	1	0	2	0	12	2	14
	25	17	15	0	27	0	5	0	14	0	14	4	10
その他	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	3	3	6
	0	8	0	13	9	0	5	0	7	6	4	6	4
この講義・履修要項	3	10	26	4	9	1	16	7	8	14	62	36	98
	75	83	76	50	82	33	76	70	57	78	74	71	73
先輩，友人の情報	0	2	5	5	1	2	5	1	1	4	12	14	26
	0	17	15	63	9	67	24	10	7	22	14	27	19
何となく	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	3	2	5
	0	0	3	0	0	0	0	20	14	0	4	4	4
日課表作成上の都合	1	1	4	1	1	0	1	0	2	2	9	4	13
	25	8	12	13	9	0	5	0	14	11	11	8	10
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2	1	3
	0	0	0	13	0	0	0	0	14	0	2	2	2
この講義の魅力・講義予定	2	10	20	3	6	1	14	7	5	10	47	31	78
	50	83	59	38	55	33	67	70	36	56	56	61	58
毎回レポート	0	3	6	1	1	0	2	0	2	1	11	5	16
	0	25	18	13	9	0	10	0	14	6	13	10	12
レポートのコメント	2	7	9	2	4	0	5	2	4	3	24	14	38
	50	58	26	25	36	0	24	20	29	17	29	27	28
試験がない	1	4	13	2	3	1	6	1	3	5	26	13	39
	25	33	38	25	27	33	29	10	21	28	31	25	29
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	2	1
情報の内容・有益な授業	0	2	6	4	1	2	4	1	3	4	14	13	27
	0	17	18	50	9	67	19	10	21	22	17	25	20
単位が甘い	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0	4	1	5
	0	8	9	0	0	0	0	0	7	0	5	2	4
その他	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	1	3
	0	0	6	0	0	0	0	10	0	0	2	2	2

Ⅲこの講義に前期出席してみて

	文学部		経済学部		理学部		社会学部		法学部		全男	全女	全
この講義の程度・難しい	3	4	11	2	7	1	11	6	5	9	37	22	59
	75	33	32	25	64	33	52	60	36	50	44	43	44
ちょうど良い	1	8	22	6	3	2	10	4	8	7	44	27	71
	25	67	65	75	27	67	48	40	57	39	52	53	53
易しい	0	0	1	0	1	0	0	0	1	2	3	2	5
	0	0	3	0	9	0	0	0	7	11	4	4	4
教員の人柄・好感を持った	3	11	20	6	7	3	13	7	7	13	50	40	90
	75	92	59	75	64	100	62	70	50	72	60	78	67
反感を持った	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3
	0	0	6	0	9	0	0	0	0	0	4	0	2
どちらとも言えない	1	1	12	2	0	0	8	3	7	5	28	11	39
	25	8	35	25	0	0	38	30	50	28	33	22	29
話し方・論理的で明晰	0	10	16	5	4	2	11	6	6	9	37	32	69
	0	83	47	63	36	67	52	60	43	50	44	63	51
しばしば混乱	1	1	11	3	4	0	7	2	4	0	27	6	33
	25	8	32	38	36	0	33	20	29	0	32	12	24
どちらとも言えない	3	1	7	0	3	1	3	2	4	9	20	13	33
	75	8	21	0	27	33	14	20	29	50	24	25	24
説得力・あった	1	6	7	3	3	1	8	3	4	3	23	16	39
	25	50	21	38	27	33	38	30	29	17	27	31	29
少しあった	2	6	17	5	4	2	7	5	8	13	38	31	69
	50	50	50	63	36	67	33	50	57	72	45	61	51
あまりなかった	1	0	7	0	2	0	3	0	1	2	14	2	16
	25	0	21	0	18	0	14	0	7	11	17	4	12
全然なかった	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	4	1	5
	0	0	0	0	18	0	5	10	7	0	5	2	4
わからない	0	0	3	0	0	0	1	1	0	0	4	1	5
	0	0	9	0	0	0	5	10	0	0	5	2	4
板書・読みやすい	3	11	22	7	8	2	14	9	10	18	57	47	104
	75	92	65	88	73	67	67	90	71	100	68	92	77
読みにくい	1	1	10	0	3	1	7	1	4	0	25	3	28
	25	8	29	0	27	33	33	10	29	0	30	6	21
毎回レポート・大変	0	3	14	5	3	2	8	4	5	9	30	23	53
	0	25	41	63	27	67	38	40	36	50	36	45	39
ふつう	3	7	18	3	8	1	13	6	9	8	51	25	76
	75	58	53	38	73	33	62	60	64	44	61	49	56
楽	1	2	2	0	0	0	0	0	0	1	3	3	6
	25	17	6	0	0	0	0	0	0	6	4	6	4
レポート返却・期待する	4	11	28	7	10	3	19	10	11	17	72	48	120
	100	92	82	88	91	100	90	100	79	94	86	94	89
どうでも良い	0	1	6	1	1	0	2	0	2	1	11	3	14
	0	8	18	13	9	0	10	0	14	6	13	6	10
期待しない	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	1

	文学部		経済学部		理学部		社会学部		法学部		全男	全女	全
コメント・参考になった	3	5	17	7	7	3	16	8	8	6	51	29	80
	75	42	50	88	64	100	76	80	57	33	61	57	59
参考にならなかった	0	1	6	0	4	0	1	1	2	0	13	2	15
	0	8	18	0	36	0	5	10	14	0	15	4	11
どちらでもない	1	6	11	1	0	0	4	1	3	12	19	20	39
	25	67	32	13	0	0	19	10	21	67	23	39	29
コメントの量・適当	1	6	13	2	6	1	8	5	5	11	33	25	58
	25	50	38	25	55	33	38	50	36	61	39	49	43
少ない	3	6	21	6	5	2	12	5	9	7	50	26	76
	75	50	62	75	45	67	57	50	64	39	60	51	56
履修して・良かった	4	12	27	8	8	3	16	9	11	15	66	47	113
	100	100	79	100	73	100	76	90	79	83	79	92	84
良くなかった	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2
	0	0	3	0	0	0	0	0	0	6	1	2	1
わからない	0	0	6	0	3	0	5	1	3	1	17	2	19
	0	0	18	0	27	0	24	10	21	6	20	4	14

主な記述（圧倒的に男子の方が自由記述が多い。）

文学部

(男) レポート作成が有益。自分の体験と照らし合わせて考えることができた。もっとコメントを。もっと大きい教室にして。訳の分からない哲学用語を使わず，参考文献が提示されるから。(女) 普段何気なく接しているものを改めて考える。漠然としていたものを言葉にできた。考えなかった世界に触れた。静かに。普段の生活で話さないことを話題にできる。もっと広い教室で。普段考えることの参考になる。耳慣れないことがおもしろい。

経済学部

(男) 毎回のレポートが反映される授業を期待する。プリントの文章が難解。少し人生観に新たな考え方が加わりそう。もっとコメントを。反論しながら自分の人生観を深めてゆきたい。少人数ならば申し分なし。今まで考えていなかったことを考えられた。テーマが興味深い。コメントがもらえる。もっと大きい教室で。レポートは疲れるがテストがない方がよい。他ではなかなか聞けない話が聞ける。自分で考える余地がある。迷いを解決する糸口が見つかった。自分の意見に反応があるから。(女) レポートを書くことによって毎回真剣に聞ける。狭い。考えたことのないことを考える喜び。

理学部

(男) 文章力向上につながる。自分の浅さを思い知った。私語対策にユーモアをもって。知らない分野を勉強できた。時間，無をテーマに。良い勉強になっている。まだ哲学がわからない。もっと易しく。真剣な気持ちに真剣に応えてくれる。私語する学生を叩き出せ。自分の無知に気づく。独断的。

社会学部

(男) 違った角度から人生を見直す。異性の書くレポートの内容を知りたい。自分の考えがぼんやり見えてきた。まだわからない。もっとコメントを。人生についてよく考えることができた。(女) 哲学的に考える機会がもてる。もっとコメントを。普段考えないこと。自分が深まる。私語の退治を。

法学部

(男) もっとコメントを。普段他人と話せないことを話題にする。他人のレポート内容も知りたい。論理的表現力の訓練になる。広い教室を。参考文献増やせ。レポート提出は大変良い。思考の参考。もっとコメントを。人生についての一つの解決を学んだ。普段考えないことを考えた。(女) 本音を聞ける。抽象的言葉が難しい。話が表面的で易しすぎる。もっと学問的に。普段考える機会のないことを考えるきっかけになった。真剣に考える機会。授業は楽しいがレポートが大変。身近な哲学講義。もう少しわかりやすく。横文字読みにくい。